

掛け算の法則

話は少し古くなりますが、過日のサッカーのアジアカップの中では、大迫選手おおさこの復帰がチームを変えたと報じられました。もちろんこれは、彼の運動量や技術の分だけ良くなったのではなく、大迫選手おおさこが加わる相乗効果そうじょうこうかで他の選手の動きも変わり、チーム力が格段に伸びたことを指します。スポーツでは、こんな事例をよく目にします。

手伝う人が一人増えれば、ふつうは効率が上がります。一人より二人、二人より三人と、増員した人の分だけ出来る作業の量が増えるからです。能力の高い人の加入で効率が上がるのも当然の理屈です。しかし、現実には面白いもので、増えた人によっては数倍の勢いが出るケースもある一方で、増えたことで能率が落ちる場合もあります。一人減ったのに、かえって仕事ははかどることもあります。つまり、「1 たす 1 は 2」とならないのが人間関係で、まことに人と人との関わりは、足し算や引き算では説明が難しいなあと思います。

ところで、ちょっと頭を切り替えて、これを掛け算かで考えると意外とスッキリするのを感じます。「掛け算で」などと言うと面倒に思う人もあるでしょう。思考停止せずもう少しお付き合いください。

ご承知の通り掛け算は、1 より少しでも大きな数を掛けると元の数は増えます。1 より少ない数だと元の数は少なくなり、ゼロを掛けると相手もゼロに、マイナスの数字を掛けると相手もマイナスで増大していきます。仮に私の能力を1として、その10倍のやる気と技能を持つ人と関わった場合、特に努力も工夫もしない1のままだと、「 $10 \times 1 = 10$ 」で人数は増えても二人の力は10のまま、いなくても変わらない存在です。ところが私が、わずかに十分の一ほどやる気を出せば、「 $10 \times 1.1 = 11$ 」で11に、二倍の努力をすれば「 $10 \times 2 = 20$ 」で二人で20の力になります。私の力は元々が1ですから、倍の努力でずいぶん伸びます。もちろん、関わる私が三倍、四倍に変われば、成果も飛躍的に上がります。二人の元の力の11を維持するのに十分の一のやる気を加えたのは、せめて協力を惜しまない姿勢がないと、自分もダメになりかねないと捉えればどうでしょう。

逆に怠けて半分の力で関わると、「 $10 \times 0.5 = 5$ 」で相手の力も半減します。無気力に関わると「 $10 \times 0 = 0$ 」で相手の能力を台無しに。悪意を持って妨害するような関わり方になった場合、負の数を掛けるのですから「 $10 \times -5 = -50$ 」で二人で泥沼に沈むことになるのです。

もちろんこれは譬えに過ぎませんが、新しいご信者のやる気に触発されて、組内がガラッと変わる事例はよくあります。先日も伊豆のお寺で「素晴らしい夫婦がお教化になって、よくご奉公するので古い人たちも変わったよ」と聞きました。プラスを掛けあわせた効果です。逆に「前はよくご奉公できた人なのに、仲良しが変わってダメになったね」というケースもあります。根は凡夫のお互いですから、愚痴や批判を言い合う関係に身を置くと、自身もマイナスの力に染まると気を付けねばなりません。とまれ、まずは自身が前向きに努力し、相手のプラスひっすとなるよう関わる心得は必須と感じます。

(『松風寺月報』平成31年3月号)